

1 単元名及び単元の目標

住みよいくらしをつくる 水はどこから
(2/13本時)

- ◎ 飲料水の確保にかかわる対策や事業に関心をもち、飲料水の確保と自分たちの生活や産業とのかかわりや飲料水を確保する対策や事業が計画的・協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、節水など水資源を守るために協力できることを考え、取り組もうとする。



【資料1 疑問を書いたカードを集約したもの】

2 本研究授業の提案について

水道の学習に取り組むための学習課題を考えさせる手だてとして、以下の二つを提案した。

- (1) 水に関する子供たちの疑問から学習課題づくりに取り組ませたいと考え、そのための資料として水に関わる写真を準備した。子供たちに身近であることや見たり聞いたりして知っているものとして、学校のプールでの授業、野外活動で遊んだ水神の沢、家族で遊びに行く機会の多い釜房ダム、震災時の給水車に並ぶ行列の4枚である。子供たちはこれらの写真を手がかりに「飲む水にするためにどんなことが行われているのか」「水道の水はどこから来るのか」「川の水はどこから来るのか」「給水車の水はこの水か」など水に関わる疑問をいろいろ考えることができた。以上のことから水に関わる身近な写真を提示し、水や水道について知りたいことを考えるきっかけにしたことは有効であった。
- (2) 一人一人がカードに書いた知りたいことを発表し、類似している考えがある場合はその場でまとめるようにした。全員が終わった後に、集まった情報の共通点を考えタイトルを付けさせた。集約は比較的スムーズに進んだが、個人の疑問点のカード記入に時間をかけ過ぎたために学習課題のタイトル付けが教師主導になってしまい、根拠を伝える話合いの時間を十分にとれなかった。指導過程の時間配分が反省点である。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 学習課題を考えるために4枚の写真を提示し、子供たちは水に関わる疑問をいろいろ考えることができたが、疑問が多岐にわたり集約しにくいものも出てきた。提示資料を写真だけでなく水の使用量のような統計資料も加えることで、考えるポイントを絞りやすくなったのではないと思われる。
- (2) 集約する活動がスムーズにできるように場の工夫に取り組んだ。机を下げて黒板の前に集まって座ることで発表者に近く、知りたいことを書いたカードも読める距離となり、カードの共通点を見つけて集約することができた。以上のことから考えを集約するときの場の工夫は効果的だったと考える。しかし、1対多の発表形式になったことと時間不足もあり、考えの交流は不十分だった。

4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえて、次回の研究授業では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・ 児童の考えを引き出すための資料の精選と提示の仕方工夫。
- ・ 指導過程の中でお互いの考えを交流させるための時間の確保と、考えを交流させるのに効果的な学習形態や場の工夫。